

東京羽田 Vickies (ヴィッキーズ) 観戦記

入新井地区 石井 一平

2月9日(土)に大森医師会ディとしてバスケットボール女子日本リーグ「東京羽田ヴィッキーズ応援」試合を大田区総合体育館で観戦しました。

当日の天気予報では降雪とされていましたが、幸い小雪が舞う程度で、交通にも支障が出ませんでした。午後1時試合開始ですが、加藤事務長と中村さんが、早くから準備して入口で迎えて下さいました。大森医師会の公益事業の一環としてひまわり苑・コスモス苑の利用者40名程招待しています。

四千人ほど入れる規模広い体育館のメインアリーナでは、米国プロバスケットNBAの放映で見るとような、天井から吊されたスコアやメンバーの成績など電光掲示板で一覧できて本格的です。華やかな音楽が流れ20名ほどの若いチアガールがオヘソを出すコスチュームで飛び跳ねています。

ヴィッキーズのメインスポンサーは羽田の荏原製作所、対戦相手はトヨタ紡績サンシャインラビッツです。メインスポンサーの規模が違うようで、相手の応援団もアウェーにも拘わらず纏まって多くいらっしやいました。

大森医師会からの観戦者は、高野先生、そのご子息家族6人(高野先生のお孫さんはミニバスケットをやっているそうです)、石井、それと事務局からの2名と、やや少なかったのが残念でした。試合前のウォーミングアップでは、3ポイントゾーンからのシュートもどしどし入っていて、さすがに全日本リーグの選手と感じました。実際ヴィッキーズの選手の中には全日本チームの選抜選手になっている人も居ます。両チームとも20人ほどの選手が居て、身長は160cm台の方も居るし180cmを超える選手も居ます。近くで見ると体格もしっかりしていて、本来は体のぶつかり合いは無いはずですが、実際には多少の衝突が有り、それにも十分耐えられる筋肉質です。全日本チームに選抜される様な選手の動きは、メリハリがあり、他のメンバーへの繋がりを考えていて、素早く無駄の無いものでした。

私も中学校から大学までずっとバスケットボール部に所属して、その経験からヴィッキーズより相手チームが大分強いと感じました。いざ試合(10分x4)が始まると、第1クォーターで10~15点ほど点差が出来、ハーフタイム時点でも差が少し開きます。

ハーフタイムには地元のチアリーディングチーム(幼稚園から小学生)のパフォーマンスがあり、会場を和ませてくれました。試合中ヴィッキーズのチアガールは応援をリードします。観客に配布

された選手の名鑑を屏風畳にしてハリセンの様に拍手、また「ディーフェンス」などのかけ声を促します。私とすると、声援を掛けるよりは、選手のプレーをじっくり観ていて余りかけ声を出せませんでした。

ハーフタイムには、わざわざコートから北川先生が我々の所にいらして下さいました。チームドクターを担当なさっているとのこと。この部分でも応援できていることを嬉しく感じました。後半が始まると、メンバー交代を工夫したり、攻撃や守備のフォーメーションを工夫したりで、点差は縮まり、追いつけそうな波瀾万丈な展開となりました。然し相手も確実なシュートを決め、10点程の差が縮まる事が出来ません。結果は67vs79の惨敗です。結果はどうで有れ、試合内容は面白く、十分に満喫できました。ご招待したひまわり苑・コスモス苑職員の方からは厚く感謝されました。皆様ライブで試合観戦できて楽しまれたようです。

恒例では試合後に選手達が観客をハイタッチで見送ってくれるそうですが、当日はインフルエンザ大流行の時期で、ハイタッチでの見送りは自粛されてしまい、残念でした。

事務局のお二人は、観戦用に場所の確保、お弁当の用意、お土産としてグッズの取り揃えなど多大なお世話になり感謝致します。

今後も地元での支援や応援が出来ることを楽しみにしております。

